

●登場人物

・夫 (タカヒロ)

テクノロジーに詳しく、新しい物好きが高じて、アンドロイドAを2020年に契約。ただし、アンドロイドにはあくまで機械として接しており、家族としての愛着は薄い。

・妻 (ハル)

テクノロジーには詳しくないが、アンドロイドAに家族としての愛着を持っている。アンドロイドと人間の境目は、あまり意識していない。

・アンドロイドA (アンド)

性別不詳。通称・アンド、またはアンちゃん。

2020年、アンドロイドが世間に浸透し始めたころの旧型。

やや機械的な、ゆったりとしたしゃべり方が特徴。

古くなっているが、日々アップデートに努めており、家族のことはよく理解している。

・アンドロイドB (サーティー)

性別不詳。通称・サーティー。

2030年、アンドロイドの最新型。人間に非常に近い見た目としゃべり方をする。

未来予測を得意としているが、人間の感情や場の空気を読むことは、やや苦手。

●イントロダクション

2020年より少し先の未来では、人間とアンドロイドが一緒に暮らす世界になっていた。

2030年、東京。マンションの一室で暮らす、一組の若い夫婦と一体のアンドロイド。アンドロイドはだいぶ前にリース契約されたもので古くなっており、まもなく契約満了時期を迎えようとしていた。交代の候補となったのは、高性能を謳うアンドロイドだった。しかし、最新型との契約は、長年連れ添った家族を手放すことと同じだった。その事実を、夫婦仲にも小さな亀裂を生じさせる原因となる。

本当に大切にすべきものはなにか。豊かさとはなにか。この家族にとって「望ましい未来」はやってくるのか。

■シーン1

2030年・東京。

マンションの入室、若い夫婦がいるリビング。

妻、奥にあるキッチンで遅めの朝食を作っている。

夫、ソファでスマホをいじっている。

妻、キッチンから顔を出す。

妻　　ねえ、また失敗したんだけど。

夫　　どうしたの？

妻　　殻がねえ……

夫　　え？

妻　　ゆで卵の殻が、ちゃんと剥けなくて。

夫　　ヒビ入れとくといいらしいよ。

妻　　なんで？

夫　　アンドが言った。軽く、ホントにかかるーくだって。やろうか？

妻　　ありがと。……（疑って）できるの？

夫、ソファから立ち上がり、キッチンへ行こうとする。

アンドロイドA、大きな封筒を手を持ってやってくる。

妻　　あ、アンちゃん、ゆで卵の殻ってどうやったら――

A　　ポストに届いていました。

妻　　今時珍しい。誰から？

A　　わかりません。タカヒロさん宛のようです。

夫　　ああ、確かめて。

A　　しかし「親展」とありますが。

夫　　どうせ大したもんじゃない。

妻　　私に見られたら困るものかもね。

夫　　ハルちゃんに隠し事なんて。

A　　本当に、よろしいですか？

夫　　……やっぱり貸して。

夫、Aから封筒を受け取り、封を切る。

中には2枚の書類が入っており、そのうち1枚を取り出す。

夫 「契約期間満了のお知らせ」……アンドのだ。  
A 私の、ですか。

夫、書面を読み上げる。

夫 「ご契約中のアンドロイドは、まもなくリース期間満了を迎えます。2030年――」

妻、書面をのぞき込む。

妻 更新ってこと？……え、ヤダこんなお金かかるの？

夫、封筒の中にもう一枚の紙が入っていることに気づき、取り出す。

夫 あ。最新機種お試し、無料だって。

妻 ふうん。でもアンちゃんいるし。

夫 えー！試しにさ、借りてみようよー。

妻 ええ……

夫 10年ぶりに、発見があるかもしれないからさ、ね？

妻 いいの？

夫 (Aに対し) いいよな？

A はい、もちろん。

■シーン2

シーン1から数日後。

夫、昼食を用意している。

A、洗濯物を持っている。

夫 やらかしたあ。

妻 どしたの？

夫 軽く、軽くヒビをなあ。

妻 ああ、ゆで卵？

夫 ゆでる前に、割っちゃった。

妻 下手だなあ。ヒロくんさあ、力強<sup>つよ</sup>すぎんよ。

夫 作り直そう。

妻 いいよ、スクランブルエッグとかにすれば。

夫 ごめん。次はアンドにやってもらうか。

妻 アンちゃんに頼らないの。(Aに)力加減、難しいもんね。

A ス克蘭ブルエッグなら、レシビがあります。

妻 ゆで卵作るときにね、軽くヒビを入れるといいんだって。

夫 それ、アンドが教えてくれた話だから。

妻 ああ、そっか。アンちゃんさすがー！

A ありがとうございます。……あの、ハルさん。

妻 ん？

A まもなく午後一時から、予定が一件あります。

妻 え、なんだっけ？

A レンタル業者、と書いてあります。

夫 ああ、お試しのアンドロイドの。今日だっけ。

妻 ちよつとアンちゃん、もつと早く言ってよー！

A すみません、タカヒロさんには昨晚もお伝えしたのですが。

夫 そうなの？悪い、聞いてなかった。

妻 準備しなきゃ。掃除、あとお食事。

夫 別にいいだろ。ただの営業なんだから。

玄関のチャイムが鳴る。

A、来客を迎えに玄関へ。

妻 もう来た！ちょっと早く手伝って！  
夫 はいよー。

アンドロイドB、Aに連れられてリビングへやってくる。

A 段差にお気をつけください。

B お気遣いなく。見ればわかりますので。

妻 あ、どうもお。わざわざお越しいただいて。

B 奥様ですね。この度はご検討ありがとうございます。

夫 すごいな、自律型なんだ。

妻 どういうこと？

夫 こいつロボットだよ。(Bに)一人で来てんの？すごいなあ。

妻 え、そうなの？

B タカヒロさんですね。さすがお目が高い。

ご検討ありがとうございます。サーティーと申します。

夫 よろしく。

A お茶をお持ちします。

B いえ、お気遣いなく。喉は渴きませんので。

さっそくですが、お話しさせていただいてもよろしいですか？

アンドロイドB、夫妻に向かって説明を始める。

諳んじているようだが、ジェスチャーを交え、堂々とした雰囲気のパレゼンテーション。

夫妻、Bの説明をソファに座って聞く。

A、夫妻の横に立っている。

B この度はご連絡、誠にありがとうございます。

改めまして、家庭用アンドロイド2030モデル、通称・サーティーです。

トゥエンティサーティー

どうぞよろしくお願い致します。

夫妻 お願いします。

さて、お二人とも、私にどんなことができるのか、気になりませんか？

夫 うん、そうだね。

B 10年前の旧型ロボットと、最新のアンドロイドの違い、気になりますよね？

妻 そう、ですね……

B まず、プロセスサの性能が格段にアップしています。

夫 より賢くなって、難しい会話やウイットに富んだ雑談も得意です。  
夫 うまくしゃべるなあ。  
夫 おうちのことすべてマルチタスクに、効率的に実行します。  
夫 楽になるね。  
妻 うん……  
B さらに、従来にはない新機能が「未来予測」。  
夫 お、シンギュラリティ！  
妻 シン……グラビティ……？  
B そう。1年後の家計。5年後にかかる病気。10年後に最適なお仕事。  
夫 あなただけの未来を予測することができるんです。  
夫 へえ。すげー！  
妻 でも、未来がわかるってちょっと怖い。  
夫 いろいろわかるよ。シワが増えるとか。  
夫、妻の顔を見る。  
妻 うるさい。  
夫 スミマセン。  
B 以上が、簡単な機能紹介でした。  
妻 何かご質問はございますか？  
妻 あの……アンちゃんは。  
B アンちゃん？……（Aを見て）ああ、そちらの。  
妻 お試し期間が終了しましたら、「引継ぎ」をさせていただきます。  
妻 そっか……そうですよね……  
A あの、私からもよろしいでしょうか？  
B どうぞ。  
A 引継ぎというのは、具体的には何をするのですか？  
B ああ。ご家族のこれまでのデータを移動する、それだけの話です。  
A 一部はラーニング——つまり、学習し直す必要があるでしょうが、  
（Aに対して揶揄するように）そんなのは、ねえ？  
A もう一点、よろしいでしょうか？  
B もちろん。  
A 本当に、未来がわかるのですか。  
B わかりますよ。あなたにはできないことでしょうけど。  
A 私もバージョンアップおこなを行っています。しかし——

夫 便利そうじゃん。試しに使ってみようよ。  
妻 あの、少し考えさせていただけませんか。  
B かしこまりました。

いつでもお試しいただけますので、またご連絡ください。  
今日のところはお暇いとまさせていただきます。

B、去る。

■シーン3

シーン2の夜。

妻、ペランダで夜空を見上げています。

夫、コーヒーを二人分淹れて持ってくる。

夫 (夜空を見上げる妻の行動に) 珍しいじゃん。

妻 (自分でコーヒーを淹れる夫の行動に) 珍しいじゃん。

間。

夫 星、見えないね。

妻 そうだね。でも月はきれい。

夫 曇ってない？

妻 いいの。ちょっと霞んでるだけ。

間。

妻 もう10年経つんだね。

夫 ああ、アンドか。

妻 同棲しててさ、いろいろ大変な時期だったのに。

(夫を真似て) 「未来が来た！アンドロイド元年だ！」って。

夫 あれがなかったら、もう少し早く結婚できてたな。

妻 ごめん。

夫 でもさ、アンちゃんがいたから、できた思い出もあったよね。

妻 そうだね。

夫 ほんとにそう思ってる？

妻 思ってるよ。

夫 データとか学習とか、よくわからないけど。

妻 うん。

夫 そろそろ休ませてあげたほうがいいのかもしれないけど。

妻 うん。

夫 どうしようか。

妻 どうするって。

夫 見えないよね、未来って。

妻 うん。



妻 どうなるのかな、これから。  
夫 大丈夫だよ。  
妻 ほんとに……わかってる？  
夫 わかってるって。  
妻 わかんないな、私。  
夫 え？  
妻 ごめん。見えなくなっちゃった。  
妻、立ち去る。

■シーン4

シーン3から一週間後。

夫、キッチンで夕食の卵かけご飯を作っている。

薄暗いリビング。妻、アンドロイドAの姿はない。

夫、皿を落として割ってしまふ。欠けた皿を持ってリビングへ。

アンドロイドBが駆け寄ってくる。

B どうしました、大丈夫ですか。お怪我は？

夫 割っちゃまった。

B 危険ですから、そのままに。

お食事だって、私が今ご用意しますから。

夫 いいんだ、卵かけご飯で。

B めんつゆやラー油をかけると美味しいとか。

夫 いや。シンプルなのが好きなんだ。

B そうですか。覚えておきます。

夫 ……しかしタカヒロさん、毎日卵かけご飯ではありませんか。私が来て一週間も――  
(遮るように) 作れないんだよ、それくらいしか。

B ですから、もっと栄養価の高いお料理をご用意しますよ。

この機会に、ご体験ください。

夫 このキカイね。…悪い、嘘ついた。あんまり食欲ない。

B 顔色が優れませんね。適切なお薬を注文しますから診察を――

夫 いや、いい。

B では、少しお休みになったほうがいいのでは。

夫 お前さ、ゆで卵の作り方、わかる？

B はい。7分で半熟、9分でちょうどよく、10分で固ゆです。

夫 タカヒロさんはどれがお好みですか？

夫 ……8分くらい。

B 8分ですね。覚えておきます。

夫 ゆで卵の殻。

B 殻、ですか？

夫 きれいに剥く方法、わかるか。

B はい。熱湯に入れる前に、小さなヒビを入れておけばいいそうです。

夫 お前なら作れるか？そうやって。

B どうでしょう。ヒビの加減が難しいようですからね。  
夫 割っちゃうんだろ、どうせ。  
B そうかもしれないませんが、こういうのはラーニングですから。  
夫 ほんとに難しいぞ。俺もできないし。  
B 自力で無理なら、別のツールの力を借りるまでです。  
夫 ツール？  
B そうですね、例えば、小さなスプーンで優しく叩くとか。  
夫 結局、その力加減が難しいんだ。  
B 割れてしまったら、そのスプーンで黄身をすくって、  
夫 フレンチトーストなんていかがですか？合いそうですよ、コーヒーに。  
夫 そうか。  
間。  
夫 よし、「お試し」はここまでだ。  
B では、引継ぎに向けて――  
夫 悪い、一人にさせてくれ。  
B そうですか。お役に立てず、申し訳ありません。  
夫 いや。ちゃんと家族と、向き合いたいんだ。  
B そうですか。……今日はお暇やすみします。またご連絡ください。  
夫 未来予測、できるんだろ。  
B はい、そうですね。ありがとうございました。  
夫 こちらこそ。  
B、一礼して、去る。  
夫、スマホを取り出し、妻に電話をかける。  
夫 もしもし。……ごめん。作り直そう。

■シーン5

シーン4の数時間後。

夫、ベランダから夜空を見上げている。

A、コーヒーを淹れて運んでくる。夫に手渡す。

夫 おかえり。

A ハルさんに、先に帰っていないさいと言われました。

お暇いそぎをいただき、ありがとうございました。

夫 「お暇」って。なんで「ありがとう」なんだよ。

間。

A 今夜は月が美しいですね。

夫 お前、わからないだろ。

A わかりませんが、知っています。

夫 でも、曇ってる。

A はい、美しいです。霞かすみんでいるからこそ。

夫 満月でもないよ。

A いえ、美しいです。欠かけているからこそ。

夫 そうか。

夫、コーヒーを飲む。間。

夫 ありがとうございます。ごめんな。

A いえ。

夫 よろしく、これからも。

A はい、こちらこそ。

間。

A 伝えてあげてください。ハルさんにも。

夫 そうだね。

……なあ、明日、美味うまいフレンチトーストの作り方、教えてくれよ。

A はい、調べておきますね。

妻、帰ってくる。

玄関から、声が聞こえる。

妻 ただいまー。ちよつとなにこれ暗い！アンちゃんいるのー？

夫 一緒に行こうか。

A もちろん。

夫・A、玄関へ妻を迎えに行く。

夫 ハルちゃーん。月がきれいだよー。

妻 今見てきたー。

(おわり)